

2012年度 早稲田大学 社会科学部

日本史 解答例

I 古代の政治・文化 <標準>

問1 イ・ロ 問2 ロ 問3 ハ 問4 イ・ニ
問5 イ 問6 ロ・ホ 問7 ホ 問8 ニ

現役生がおろそかにしがちな文化史と史料問題が組み合わせると、点差がつきやすくなる。史料1は頻出史料で、おきまりの空欄や下線問題であった。対策はできていただろうか。問4は「やや難」だが、イが難しいのではなくニが難しいだけである。冠位十二階の12個の冠位の名称は、覚えて当然と考えよう。ほかには問6が「やや難」で、問8が難問。

II 中世の政治・経済・文化 <易>

問1 ニ 問2 ロ 問3 ホ 問4 ホ
問5 ロ 問6 ニ 問7 ニ 問8 ホ

史料1は頻出史料で、これまた定番の空欄問題が出題された。容易に解けてほしい。史料2は頻出史料ではないが、問5は空欄④をその手前の「坂本の」で確定させて、2択に絞り込もう。問6では、関所の役割が時代によって異なることを知っているかどうか問われた。用語暗記にとどまらない学習ができているだろうか。

III 近世・近代の文化 <やや易>

問1 ハ 問2 ロ・ホ 問3 イ・ホ 問4 ニ・ホ
問5 ロ・ニ 問6 ハ・ニ 問7 ニ 問8 ロ

問1は難問。イ・ロは山川出版の『詳説日本史』の「寛永期の文化」の項をそのまま利用した正文。こう書かれている。「学問では、室町時代に五山の禅僧が学んでいた朱子学を中心に、儒学がさかんになった。(中略)藤原惺窩は、還俗して朱子学などの啓蒙につとめた」。ニは用語集の「林鷲峰」の項にある「家光に五経を講じ、幕政にも参与」を利用していると思われる。そしてホは文句なく正文。最後にハは一般的には正文と見るが、山川出版の『詳説日本史』にある「林羅山が江戸上野忍ヶ岡に設けた孔子・と私塾を湯島に移し、学問所として整備して林家に主宰させた。

その学問所が聖堂学問所である」をベースに、語句を入れ替えて誤文としているのではないかと考えて正解をハとして発表した。しかしその後、ニが「林鷲峰」を「林羅山」に変えても事実として成り立つことに気づき、作問者が用語集を見ずに人名を入れ替えて誤文としたという可能性も浮かび上がった。効率の良さを追求する受験生は、こうした問題には振り回されず、他の確実に正解できる問題に時間を回してほしい。

IV 近代の政治・経済・外交 <標準>

問1ニ 問2イ 問3イ・ロ 問4ロ・ハ

問5イ・ロ 問6イ・ホ 問7ハ・ニ 問8ニ・ホ

問1・2は難問。ただし問2は、選択肢を比較することで正解できた人も多いと思われる。ドイツやフランスの「法律」の話は受験日本史によく出てくるが、ロシアの「法律」というのは見たことがない。いっぽう、オランダやスペインが「兵力」的に強国とは言えないだろう。他には、問3・7がやや難しい。

V 太平洋戦争期の政治・外交 <標準>

問1ロ 問2ロ・ハ 問3ニ・ホ 問4イ

問5イ・ハ 問6ロ・ニ 問7ホ 問8ハ・ニ

問6は難問。イ・ロ・ハの判別はできてほしいが、ニ・ホの判別が難しい。山川出版の『詳説日本史』の記述と、三省堂の教科書のグラフをもとに判別した。そして問8は「やや難」問題。戦争による被害者数は、要所をつかんでいけばほとんどの入試問題は解けるが、今回は厳しかった。ただし、推測して解けた人はいると思われる。

講評

社会科学部では例年、有名史料の穴埋め問題が出されている。出題データにもとづいた対策が欠かせない。また、全体の半分は2つ選ばせる問題だが、部分点はないだろう。なぜなら全小問数が40個で、配点が40点だからだ。つまり完答してようやく1点というわけである。